

宮古島で再び発見されたサキシマハブ

サキシマハブが再び見つかる

サキシマハブは、八重山諸島に生息する在来種ですが、沖縄島南部の一部に国内外来種として定着しています。また毒ヘビであり、咬まれると腫れと痛みをもたらす、死亡例もあります。2013 年 4 月 19 日に本来生息していない宮古島でサキシマハブ 1 個体が捕獲されました。すぐに定着の有無を確認するため調査しましたが、サキシマハブは捕獲されませんでした(衛環研ニュース第 26 号参照)。今回、2024 年 3 月 30 日に再び宮古島でサキシマハブ 1 個体が発見されました。

発見の経緯

2024 年 3 月 30 日、平良港内のコンテナが積み下ろしされる場所で、コンテナの下ですでに死んだ状態で発見されました。死体は当研究所に送られ確認したところ、全長 44cm、体重 12.7g、性別はメスで、孵化後約半年と思われる小さなサキシマハブでした(図 1)。

生息確認調査

定着可能性の有無を確認するため、サキシマハブ発見地点周辺の緑地帯を中心にトラップ 30 台を任意の場所に設置しました(図 2)。トラップは、2024 年 4 月 10 日から 8 月 14 日の 126 日間設置し、2 週間間隔で見回り点検を行いました。調査の結果、サキシマハブの捕獲はありませんでした。宮古島に在来ヘビ類のサキシママダラ 33 個体、サキシマスジオ 1 個体が捕獲されました(図 3)。



図 1. 2024 年 3 月 30 日に宮古島で発見されたサキシマハブ。

早期発見で定着を防ぐ

2013 年の時と同様に今回も発見以降に 2 匹目が見つかることはありませんでした。港湾内で発見されたことから、船の荷物に紛れて持ち込まれた可能性が考えられますが、侵入経路など詳しいことはわかっていません。夜行性のヘビは特に人目につきにくく、すぐ近くに潜んでいても人に気付かれないことがほとんどです。宮古島での 2 例は発見された場所が港湾内で、ヘビが隠れる場所が少なく発見しやすい環境であることが早期発見につながったのかもしれませんが。沖縄島のタイワンハブや粟国島のハブのように、1 匹見つかった後にトラップを用いて調査すると立て続けに捕獲された例もあります。再度、同様な持ち込みのリスクがあると考えられるので、早期発見して定着を防ぐために、見慣れないヘビを見つけたら当研究所か最寄りの保健所にご連絡ください。



図 2. 生息確認調査におけるハブ捕獲器設置地点。○がハブ捕獲器を設置した地点。★は 2024 年 3 月 30 日のサキシマハブ発見地点。地図は国土地理院基盤地図情報のデータを基に作成。



図 3. 宮古島在来のサキシママダラ(左)とサキシマスジオ(右)。

【衛生科学班】